

故谷本貞人総長 大学葬

2100人が献花

82年の生涯のうち60年間を本学の発展に尽くし、さる4月25日死去した故谷本貞人総長の大学葬が6月27日(日)、中宮学舎谷本記念講堂で執り行われ、官公庁、大学関係、企業、一般の会葬者や同窓生、本学教職員、学生ら約2100人が参列、入りきれない参列者はマルチメディアホールで中継を見守った。



献花台に向かう学生たち



告別の辞を読む片山葬儀委員長

ベリテのリードによる学歌の献奏があり、葬儀委員長の片山智行・本学理事(国際言語学部教授)が「教職員が一致協力して先生のご遺志を引き継ぎます」と告別の辞を贈った。

総長の大学葬が営まれ、故人が愛してやまなかつた学生のみなさんにも多数お見送りしていただきました。亡き総長も心から喜んでいらっしゃることを存じます」とお礼の挨拶を述べた。

海外提携校代表の米国ガスタバス・アドルフ・アス大学ジャック・オーリー学長、日本私立短期大学協会佐藤弘毅会長、教職員代表の山本甫理事(国際交流部長)の3人が弔辞を奉読。内外からの弔電紹介のあと、喪主の谷本榮子理事長が参列者へ「多くの思い出の詰まった講堂で、亡き

ガスタバス大学から感謝の寄金

理事長「両大学の交流に役立てたい」

故谷本総長の大学葬に参列し、本学の海外提携校を代表して弔辞を奉読したガスタバス・アドルフ・アス大学のオーリー学長が葬儀後、カースティン夫人とともに谷本榮子理事長、谷本義高学長と懇談した。

オーリー学長は、「ガスタバス・アドルフ・アス大学学長と理事会は、総長として卓越したリーダーシップを発揮した谷本貞人博士を記念し、本学が関西外大の最初の提携校となったこと、1974年以来ガスタバスの学生209人と教員22人を関西外大に派遣し、枚方で貴重な体験をしたこと、関西外大から学位留学生を受け入れ、関西外大生が同様の経験をしたこと、の故に、総長への感謝の意を込めた贈り物をします。ガスタバス・アドルフ・アス大学は両大学の交流が将来にわたって続



理事長(左)と懇談するオーリー学長と夫人(右)

告別の辞

片山 智行・葬儀委員長
(関西外国語大学理事、教授)

谷本貞人総長
本日ここに先生のご遺徳を偲びつつ、謹んで最後のお別れの言葉を申し上げます。



若き日、先生は颯爽とした青年教師として、岡山県の高校に勤められ、多くの生徒たちに慕われておられました。先生にとっては、のどかで楽しい青春のひと時であったと思います。

その先生が心機一転、更なる飛躍を求めて、一年間勤めた高校の職を捨て、大阪にある現在の大阪市立大学、当時の大阪商科大学に進学されたのであります。向学心に燃えた先生でありましたが、当時大阪で谷本英学院を経営なさっていた伯父様ご夫妻に懇

請され、大学に通学する傍ら、短期大学設立に向けて懸命に奔走されました。経済的に苦しい中、さまざまご苦労に耐え、艱難辛苦してその重責を果たされたのであります。

先生は大学経営に日夜、全力を注がれました。私も何度か学長室で執務中の先生のお姿を拝見したことがあります。先生は、先生はいつも食い入るように書類を見つめられ、ときに鬼気迫るものを感じたことがあります。人生のすべてを関西外国語大学に捧げられた、と申し上げても過言ではありません。

先生は小規模な谷本英学院から出発して、一万三千人をゆうに超える学生を持った、規模では日本一の外国語大学を育て上げられました。これは常人ではなし得ない大偉業であります。先生の築き上げられた関西外国語大学は、後継者の理事長、学長のご指導のもと、教職員が一致協力して、先生のご遺志を引き継いでまいります。このことを先生のご霊前に謹んでお誓いし、もって告別の辞といたします。

中宮キャンパス(大学院・大学・短期大学部)
〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16-1
TEL. 072(805)2801

穂谷キャンパス(大学)
〒573-0195 大阪府枚方市穂谷1丁目10-1
TEL. 072(858)0021

関西外国語大学	大学院	外国語学研究所	英語学専攻博士課程前・後期	関西外国語大学短期大学部	英米語学科
	外国語学部	英米語学科	言語文化専攻博士課程前・後期		
	留学生別科	スペイン語学科			
	国際言語学部	国際言語コミュニケーション学科			

関西外大の最新ニュースはホームページにも掲載しています
<http://www.kansai.gaidai.ac.jp/>

We Pledge to Continue Your Work

Chancellor Tanimoto, it is my distinct honor and privilege to have been invited to share in this memorial service to recognize and pay tribute to you, a person of great vision. You have been a distinguished and learned leader of Kansai Gaidai University. I am pleased to represent not only the institution I serve as President, Gustavus Adolphus College, but I also speak on behalf of the many other educational partners of Kansai Gaidai University. Together, our institutions, faculties, and students are the grateful beneficiaries of your vision of the importance of international education and intercultural relations in an increasingly inter-dependent world. Your life's work reflected your family's tradition and commitment to build a better world through educational exchange.

Gustavus Adolphus College, an institution recognized in the United States as a highly selective liberal arts college and considered by many to be one of the top 50 colleges in the country, is, as you know, located in St. Peter, Minnesota, a small town in the Midwestern part of the United States. We are honored that Gustavus was the first educational partnership established under your leadership. That partnership began when students came to study at Kansai Gaidai in 1972. Since the beginning of the relationship, Gustavus has had 22 faculty who have taught over 30 years at Kansai Gaidai, representing the fields of study and research ranging from the classics to theology, the arts to the sciences, and from psychology to economics. In addition, 209 Gustavus students have studied for a semester or more at this distinguished institution. Most of the students who have studied here from Gustavus grew up in the Midwestern part of the United States, and the opportunity to live and study abroad was not only highly beneficial but indispensable in broadening their individual personal perspectives and depth of understanding of the world at large. The lives of our faculty and students have been impacted and enriched by their experiences here in Hirakata. Many significant friendships have developed and continue to this day. At the same time, Kansai Gaidai students have studied at Gustavus and now hold degrees from both institutions. Likewise, your vision has enriched the educational experience of students and faculty at numerous other colleges and universities in the United States. In recognition of your foresight and leadership in education, the faculty and Board of Trustees at Gustavus Adolphus were pleased to award you an honorary doctorate degree in 1980.

Even as we honor you and your life's work, we must look forward to and prepare for, as you would want us to do, a world of increasingly complex relationships. The depth of leadership that can result from the relationships established through Kansai Gaidai's educational partnerships will be invaluable to prepare world leaders for this challenge. This future will undoubtedly pose many new problems for all peoples and cultures. Without a doubt, international education and the understanding of language can be a major factor in preparing the leaders of tomorrow to deal with both the ongoing and new problems they will confront.

And, today, we gather here to remember you. You clearly understood these principles. I am humbled to be part of this significant ceremony. We pledge to continue your work at Gustavus Adolphus College and at Kansai Gaidai's many other institutional partners in the United States.

DR. JACK R. OHLE,
PRESIDENT OF GUSTAVUS ADOLPHUS COLLEGE,

(抄訳) 本日、多大な業績を残された谷本総長の大学葬参列の栄を賜り、大変光栄に存じます。谷本総長、あなたは、関西外大の偉大なリーダーでした。私は、ガスタバス・アドルフラス大学だけでなく、関西外大の全ての海外提携大学の代表として、谷本総長に感謝の意を表したいと思います。相互依存が加速する今日の国際社会で、国際交流を通してよりよい社会を築くことを目指し、これを自らのライフワークとして推進されたことで、われわれ提携大学の多くの教員、学生たちが恩恵を受けてまいりました。

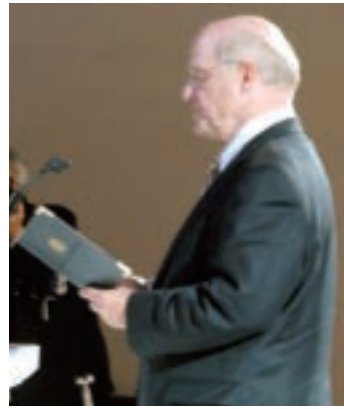
ガスタバス・アドルフラス大学は、アメリカのミネソタ州セント・ピーター市にある、質の高い教育で全米トップ50にランクされている大学でございます。わが校は、1972年に、関西外大の初めての交換提携大学として交流協定を結んで以来、今日までその良好な関係を続けてまいりました。

本学からは、過去22人の教員が交換教授として関西外大で教鞭をとりました。また、これまでに209人のガスタバスの学生が関西外大へ留学しています。ほとんどの学生はアメリカ中西部で生まれ育っているため、このような留学の機会は学生たちにとってきわめて貴重な体験です。人間としての成長だけでなく、より広い視野をもって世界をみるようになることができました。この枚方の地で過ごした日々は、多くの教員や学生たちの人生に多大な影響を与え、その時築いた友情は今なお続いていると聞いています。同時に本学では、関西外大からの学位留学生の受け入れも行っています。このように、谷本総長が推進してこられた国際交流の恩恵に浴した教員や学生は、数えきれないほどいます。

総長のこのような貢献に対して、本学は1980年に名誉博士号を授与させていただきました。

私たちは、総長の業績をたたえながらも、将来をみつめ、更に前進しなければなりません。関西外大を中心としたネットワークを生かして、次の世代のリーダーを育成していかねばなりません。これからの世界を支えるリーダーたちにとって、国際経験や新しい言語の修得は不可欠なのです。

本日私たちは、総長の業績を心に刻むために、ここに集まりました。このような意義深い式に参列させていただいたことを、大変光栄に思います。私たちは、わが校や関西外大だけでなく、全ての提携大学と協力して、総長の遺志を受けつぎ、より一層尽力してまいりたいと思います。



米国ガスタバス・アドルフラス大学 学長
ジャック・オーリー

吊
辞

(敬称略)

日本私立短期大学協会 会長

佐藤 弘毅

本日ここに、学校法人関西外国語大学理事長・関西外国語大学短期大学部学長であられた、谷本貞人先生の学園葬が執り行われるにあたり、日本私立短期大学協会を代表して謹んで哀悼の誠を捧げます。

今、温容をたたえられた先生の遺影を前にして、敬愛する先生のご生前のご偉業を偲び、惜しみてもあまりある方を失った哀惜の情が切々と胸に迫ってまいります。

顧みますれば、先生の教育の原点は終戦直後の十七歳であったと伺っております。先生は、学園創設者の谷本昇、多加子先生が掲げられた建学の精神、「国際社会に貢献する人材の育成」とその方法としての「実学」を、より具体的に、鮮明に打ち出していかねばならないとのご信念から、昭和二十八年に関西外国語短期大学、昭和四十一年



心に残る先生の言葉 「セルフサポートの精神」

には関西外国語大学を創設・開学されたのであります。

先生は機会あるたびに、「私学のよって立つ最も重要なものは、セルフサポートの精神です。これを忘れては、私学の存在価値はありません」と語っておられました。このお言葉が私にとりまして心に残っております。

今日、貴学園は、国際社会に貢献する人材育成の拠点として、多くの外国の

大学と交流を結ばれるなど、我が国の大学を代表する学園として大きな発展を遂げられました。ここに至るまで、他人には伺い知れぬたいへんなご苦労があったことと存じます。先生はまさに、学校法人関西外国語大学の産みの親でもあり、育ての親でもあります。

一方、先生には、私も日本私立短期大学協会におきまして、昭和六十年から平成三年まで理事、常任理事、そして平

成四年から十五年の永きにわたり副会長としてご在任いただき、私立短期大学の発展のため多大のご尽力を賜りました。さらには、短期大学の認証評価機関である短期大学基準協会の創設にも貢献されるなど、常に私立短期大学の発展のために情熱を注いでこられました。

また、文部省の大学設置・学校法人審議会委員をはじめ、私立大学退職金財団理事、日本私立学校振興・共済事業団

理事などを歴任され、我が国の高等教育の発展と私学の振興に大きな功績を残されたのであります。

とりわけ、協会の後輩役員として多年にわたり、ご一緒させていただいた私には、折に触れて先生の確かな記憶力と綿密な記録が協会の重要な意思決定を導いたことが、鮮明な思い出として残っております。

現在、私もこの悲しみに埋もれない学生の減少期を迎えておりますが、このような厳しい時期に、偉大な先生を失ったことは痛恨の極みであり、断腸の思いでいっばいでございます。

しかし、私もはこの悲しみに埋もれることなく、先生のご遺志を受け継ぎ、短期大学の発展と私学振興のため、一層努力することをここに誓いいたします。

貴学園におかれましては、建学の理念、「国際社会に貢献する豊かな教養を備えた人材の養成」と、「公正な世界観に基づき、時代と社会の要請に応えていく実学」の灯を、理事長の谷本榮子先生をはじめ、学園関係者の皆様を受け

継がれ、学園をますます隆盛にされることを、谷本先生が泉下からお導きくださるものと確信いたしております。ありし日の先生の温顔を偲び、安らかなご冥福を心からお祈り申し上げます。お別れの言葉とさせていただきます。

谷本貞人先生、本当に永い間お世話になりました。どうぞ安らかにお休みください。

平成二十二年六月二十七日
日本私立短期大学協会
会長 佐藤 弘毅



代表献花者一覧(敬称略)

団体名	役職名	氏名
ガスタバス・アドルフアス大学	学長	ジャック・オーリー
日本私立短期大学協会	会長	佐藤 弘毅
東西大学	副総長	秋 萬錫
高野山真言宗 和田寺	住職	田辺 快應
日本私立大学協会	事務局長	小出 秀文
日本私立大学協会	副会長・関西支部長	森田 嘉一
京都外国語大学	理事長・総長	関根 秀和
大阪私立短期大学協会	会長	関根 秀和
財団法人 短期大学基準協会	副理事長	関根 秀和
自由民主党 衆議院議員	総務会長	田野瀬 良太郎
民主党 衆議院議員	前内閣官房長官	平野 博文
枚方市	市長	竹内 公也
枚方市議会	議長	池上 勝也
枚方市教育委員会	委員長	宮川 圭一
三井住友銀行	副頭取	安藤 圭一
三菱東京UFJ銀行	副頭取	原 大仁
読売新聞大阪本社	代表取締役社長	中村 仁
毎日新聞社	執行役員 大阪本社副代表兼広告局長	園崎 昭夫
日建設計	取締役副社長	林 直樹
鹿島建設	執行役員	酒井 晴生
竹中工務店	専務執行役員	人見 亨之
小松製作所	総務部長	滝井 博之
枚方ライオンズクラブ	代表	石原 紀一
近畿おやかま会	会長	石部 修平
大阪市立大学 有恒会	代表	福岡 美彦
財団法人 有恒会	理事長	森 恕
又信会大阪支部	支部長	山本 甫
教職員代表 学校法人 関西外国語大学	理事・国際交流部長	山本 甫
在校生代表	学生会会長	古川 貴世
	体育会副会長	木内 崇弘
	文化会副会長	廣畑 竜士
	穂谷体育会会長	坂田 一



黙祷をささげる参列者たち

関西外国語大学教職員代表

山本 甫

先生、本日は教職員を代表して、お別れのご挨拶をいたします。

高校受験に失敗し、文字通り灰色の高校生活を送っていた私は、挙句の果て一浪し、これ以上失敗は許されぬ、瀬戸際にたっていました。今から四十四年前のことでした。その時ふと目にしたのがNHKの英会話テキスト、そこに本学の創立の案内が載っていました。ふと目にした広告が、自分の一生を決めることになるとは、その時知る由もありませんでした。

第一期生としての入学式、まさしく



「ないないづくし」の出発でした。講堂もなく、入学式は青天井の下で執り行われました。初代理事長・学長谷本多加子先生の力強いスピーチ、そしてその後開かれた、学部生のためのオリエンテーション、そこには国立大学を退官されたと思われる、かなり年配の先生方が、前に並んでおられました。その中で、一際若い先生が、カリキュラムや大学の方針を話されていました。それが私の谷本先生との最初の出会いでした。先生は昔から童顔で、年よりもかなり若く見られていました。私には、三十三歳前半に見える青年が、居並ぶ年配の教員を前にして、堂々と熱く、大学の学方針を話される姿を見たとき、大きな感動とあこがれの念を抱きました。自分も出来たらこんな人になりたい、と思ったことが、昨日のように思い出されます。

先生、教育に携わる人は、先生のような人を指すのだと思います。大学開学の思いを熱く語り、私たち一期生への期待をこめた激励は、私達に大きな夢を与えてくださいました。施設は何もなにも等しいものでしたが、生涯で一番素晴らしい入学式となりました。先生は、副学長という重責を担いながら、私たちが創設したクラブの顧問を引き受けてくださいました。多忙な中をクラブの合宿にも来てくださり、私たちの活動を、親身に支えていただきました。母家庭に育った私は、先生は、時として、「兄貴」のようであり、「父親」のようであり、また人生の「師」のような存在でした。

教育に自らの生涯をかけた自分を律し学生を愛した

卒業後、先生より、本学に残り、国際交流の仕事をしていないか、とのお誘いがありました。当時、二十三歳の何も分からない私に、思いもかけないお話をいただき、自分の生涯を、この大学にかけようと思えました。奉職して一年が経ち、やっとアメリカから留学生を迎えることができました。しかし、知名度もない、スタッフも貧弱な状況の中で、先生について愚痴をこぼしてしまつたのです。

先生は覚えておられますか。「留学生は来たけれど、来年もまた来てくれるでしょうか」と泣き言をいったとき、先生は「山本君、君の気持ちは痛いほどよく分かるよ。実は、僕も同じような、不安な気持ちを持っていて、そんな時期があったんだよ。しかし、僕と君との大きな違いは、僕が不安に思っていたときは、学校にお金がない、そんな時だったんだよ。入学生から集めた授業料で、教職員の給料をまかない、必要な経費を払えば、二月頃には底をついてしまふ。次に入ってくる入学生の前受け金で、資金を回さざるを得なかったんだよ」と話され、先生は、「昔と違って、今

れ、激励をしてくれたのです。先生の苦勞と比較したとき、私が不安に思っていたこと、泣き言をいったことが、何と情けないことなのか、恥ずかしいと思つたことはありませんでした。先生、覚えておられますか。先生はハイ学舎のことについて、文部省に説明をするため上京されました。一九七八年頃だったと、思います。私と事務局長がお供をさせていただきましたね。その当時、日本の大学が初めて海外に学校を作ったことで、文部省も、神経を尖らせていました。先生は堂々と、本学の立場を説明され、出張は成功裏に終わりました。先生は、非常に上機嫌でした。珍しく、私たちに、「今日は銀座で少し飯を食べて、飲もう」と言ってくれました。先生がこのようなことを言うことは、滅多になく、びつくりしました。文部省での話しがうまくいき、きつと喜んでおられたのだと思います。三人で銀座へ行きました。

多くの立派な飲食店があるなかで、先生は、ある店の前に立ち止まられ、「ここにしよう」と言われたのです。このときのことは、今も先生との懐かしい思い出のひとつとなっており、忘れることはできません。いろんな食べ物のサンプルの中で、先生は、指をさされ、「これにしよう」と言われたのです。それは、「親子どんぶり」と、おでんのセツトメニューでした。事務局長が恐る恐る、「どれでお酒を飲まれますか」とたずねると、先生は、「おでんがあるじゃないか」と言われたのです。

私は、本学に奉職して約四十年、その間、いろんな人との出会いがありました。しかし、先生ほど自分に厳しく、慎ましくかに生活をされた方はいません。世の中には、組織のトップリーダーになったとき、交際も派手になることが多いと思います。先生は教育という仕事に、自分の生涯をかけ、教育者として、自分を厳しく律し、学生を愛されました。

先生は六十有余年を、全て本学の発展に尽くした、偉大な創業者です。言葉では言い尽くせない、大きな足跡を残されました。先生、改めてご冥福をお祈りするとともに、教職員を代表して、心より感謝を申し上げます。先生、本当にありがとうございました。

平成二十二年六月二十七日
関西外国語大学教職員代表

山本 甫

大 学 葬

写真グラフ

June 27, 2010



会場へ向かう参列者たち



準備 OK 係員が最終ミーティング



吹奏楽部とラベリテのリードで学歌献奏



谷本記念講堂 1階ロビーでの受付風景



献奏する吹奏楽部員たち



学生は教室に集合し待機

故 谷本 貞人 総長

式 次 第

- 開 式
- 黙 禱
- 故人を偲ぶ スライド、ナレーション
- 献 奏 学歌斉唱
- 告 別 の 辞 葬儀委員長
- 弔 辞
- 弔電代読
- 挨拶 喪主
- 献 花
- 退 場



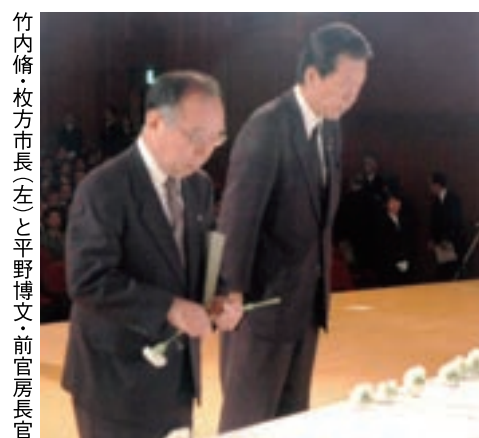
喪主・谷本榮子理事長の献花



献花する片山葬儀委員長



参列者が次々に献花



竹内脩・枚方市長(左)と平野博文・前官房長官



マルチメディアホールで参列の学生たち



谷本理事長が会葬御礼のあいさつ



大学葬を終えて、葬儀委員と遺族

吊電

文部科学大臣

高等教育と私学の発展に多大の貢献

旭日中経章故谷本貞人先生の大学葬が執り行われるに当たり、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、理事長・学長として伝統ある関西外国語大学の発展充実に大きな足跡を残されるとともに、日本私立学校振

岡山県知事

寄せられた厚情よみがえる

この度の大学葬にあたり、心より哀悼の意を表します。

今なお、ご生前の岡山県に寄せられた厚情がよみがえってまいります。在りし日のお姿を偲びつつ、故人の安らかなお眠りをお祈りいたします。

岡山県知事 石井 正弘

米国・ユニオン大学学長

His Legacy Will Be Carried Forward in Our Hearts and Minds

Dear Dr. Tanimoto :

It is with a profound sense of sadness and of appreciation that I convey to you, on behalf of Union College, my condolences on the loss that you and Kansai Gaidai have sustained with the passing of Chancellor Tanimoto. My colleagues at Union are deeply grateful for Dr. Tanimoto's life work, for his devotion to the cause of international education, and for his success in bringing to life a vision of how such education can be gained.

Union College and Kansai Gaidai initiated a lasting partnership in 1984. Both language instruction and excellent content courses in a wide variety of subjects have educated hundreds of Union students, expanding their understanding of Japanese culture and society in all dimensions. Homestays have been critical to the experience of language and cultural integration into Japanese society.

Many Union faculty members have traveled with our students to spend a semester on campus. These faculty members are from a wide variety of departments, ranging from music to economics. Their own work and understanding of Japan has benefitted immeasurably from their time at Kansai Gaidai. Furthermore, we are honored to have Kansai Gaidai students study here at Union. They contribute to our community in very important ways, bringing different perspectives to the classroom and talents and interests that they share with the Union community.

We at Union are very proud that we had the opportunity in 1995, on the occasion of our bicentennial celebration, to host Dr. Tanimoto here at Union and to award him an honorary doctorate in recognition of his contribution to international education. We know that his legacy will be carried forward in the hearts and minds of so many members of the Union College family whose lives have been changed by the education that he fostered.

Sincerely,
Stephen C. Ainlay, Ph. D.
President
Union College

スペイン・サマランカ大学学長

His Commitment and Efforts Are already Part of the History of Salamanca

Dear Mrs. Tanimoto,

It is sad news indeed to hear about the passing away of Dr. Sadato Tanimoto, Chancellor of Kansai Gaidai University.

The University of Salamanca had the greatest respect for Dr. Tanimoto, who always showed a great deference towards our University, and who was a keystone in a fruitful ten year long academic relationship between both Universities.

His passionate commitment and extraordinary efforts are already part of the history of Salamanca's International Courses. I would like to express, as Rector and in the name of the University of Salamanca, our sincere gratitude, as well as to extend our deepest sympathies to his family and to colleagues at Kansai Gaidai for such an irreparable loss.

I am deeply sorry not to be able to be present at the ceremony to pay personally my last respects to Dr. Tanimoto, but he will nevertheless be in our thoughts.

In deepest sympathy,
Daniel Hernández Ruipérez
Rector
Universidad de Salamanca

弔電披露で名前を紹介した方々(敬称略)

団体名	役職名	氏名
日本私立学校振興・共済事業団	理事長	河田 梯一
日本私立大学協会	会長	大沼 淳
財団法人大学基準協会	会長	納谷 廣美
大阪市立大学有恒会	会長	喜岡 浩二
岡山朝日高校同窓会	理事長	高祖 日出夫
中国・北京語言大学	理事長	王 路江
豪州・ニューサウスウェールズ大学	学長	フレデリック・ヒルマー
ノルウェー・オスロ大学	学長	インガ・ボスタッド
トルコ・ボアジチ大学	学長	カドリ・オズチャルドラン
ロシア・ゲルツェン国立教育大学	学長	ゲンナージー・ボルドフスキー



35か国99大学からの弔電文をパネルに掲示

興・共済事業団理事や財団法人私立大学退職金財団理事、日本私立短期大学協会副会長としても御活躍されました。また、文部省の大学設置・学校法人審議会委員などを歴任され、貴重な御意見、御助言をいただくなど、我が国の高等教育の発展及び私学の振興に多大の貢献をなされました。

ここに、先生の御逝去を悼み、心からお悔やみ申し上げますとともに、生前の御功績に対し、深く敬意と感謝の念を捧げます。

平成22年5月27日
文部科学大臣 川端 達夫

みなさま、本日は日曜日にもかかわらず、本学総長でありました主人、故・谷本貞人の大学葬にご会葬賜りまして、誠にありがたく、心より厚く御礼申し上げます。

また、亡き総長が初めて名誉博士号を頂戴いたしました米国ガスタバス・アドルフアス大学のオリー・学長ご夫妻、そして日本私立短期大学協会の佐藤弘毅会長にも、遠路、ご参列いただき、ご丁寧なる弔辞を頂戴いたしました。故人も深く、感謝申し上げます。と存じます。

葬儀委員長の片山智行先生をはじめ、大学葬の運営にご尽力いただきました委員のみなさま、そして多数の本学教職員、ならびに学生のみなさまには、大変お世話になりました。

故人に代わり、遺族を代表いたしまして、厚く感謝申し上げます。

亡き総長は、人生のすべてを本学に捧げた人でした。草創期もない、よちよち歩き、のころから本学の経営と教育に携わり、知恵と情熱の限りを尽くして、本学の成長と発展に邁進してまいりました。

生真面目で堅実、頑固でもありませんでした。しかし、旧制中学時代の恩師に教わったという「不留、つまり同じところに留まることなく、常に動くこと

喪主・あいさつ

谷本榮子理事長 不留の精神を継承「若い力育てます」



を心掛けるという意味の言葉を「座右の銘」とし、「5年先、10年先を展望して、考え、行動する」ことを、いつも、自らに課しておりました。

終戦直後に産声をあげました本学が、今日、こうして、大学院と二つの大学の学部、そして短期大学部を擁し、1万3千人もの学生がつどう学園へと大きく

にまたがる全国屈指の留学ネットワークを築き、本学が国際交流の分野でも、他の追随を許さない存在となり得ましたのも、「海外の大学で学びたい」という学生のみなさんの熱い思いを、亡き総長が、真摯に、しっかりと受け止め、内外のみなさまのお力をお借りしつつ、リーダーシップを発揮して、不断の努力を重ねてきた故でございます。

片鉾から中宮への、キャンパス移転もそうでした。「失われた10年」といわれた、長い景気低迷のなか、当初は片鉾キャンパスの再開を構想していましたが、亡き総長は「新しい世紀、21世紀にふさわしいキャンパスを」と中宮への移転を決断し、実行に移しました。

中宮キャンパスがいま、学生や受験希望者のみなさんから「快適で、国際色豊かな、おしゃやれなキャンパス」と高く評価され、本学のイメージアップに大きく貢献していることは、みなさま、ご承知のとおりでございます。

中宮移転後、谷本記念講堂は入学式や卒業式をはじめ、本学の大切なイベントの場となつてまいりました。亡き総長がまだまだ元気だったころ、勉強や人生の意味を多くの新入生や卒業生

に語りかけ、励ましてきた舞台でもございます。昨年の卒業式でも、卒業生代表の方から心のこもった花束をいただき、「ありがとう」と目を細め、胸に抱いておりました。

いま、こうしておりますと、そのときの、晴れやかで、嬉しそうな姿がよみがえってまいります。

多くの思い出が詰まった谷本記念講堂で、本日、亡き総長の大学葬が営まれ、故人が愛してやまなかつた学生のみなさんにも、このように多数、お見送りいただきました。亡き総長も心から喜んでいらっしゃるかと存じます。

時代はいま、激動のさなかにあります。大学の世界も少子化やグローバル化、大学間競争の激化など、限らない難問に直面しています。しかし、私たちは、亡き総長の本学への熱い思いと、教育への志、そして本学を導いてきた、不留の精神と先見性、行動力を受け継ぎ、未来に向けて、若い力をしっかりと育んでまいり覚悟です。

故人にお寄せいただきましたご厚誼に心から感謝申し上げますとともに、なお一層のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。

本日は、ご多忙のなか、亡き総長の大学葬にご会葬いただきまして、誠にありがとうございました。